みんなにやさしい、特別支援教育（13）

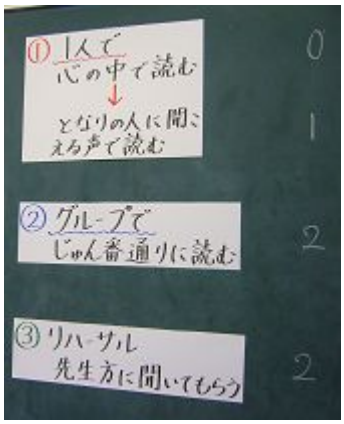
Ｙ先生の穏やかな口調で始まった東近江市生活科部会の研究授業。授業は、米原までの校外学習を前にして、先日の能登川駅での見学をまとめて、グループ内での発表練習でした。

グループ内での発表を前にして、先生は、今日の学習の流れを説明されていました。

下のような図と説明のカードを使いながら、まず、①「一人で読む」、②「グループで読む」、③「先生方に聞いてもらう」の順で、必要な時間も説明されました。また、その時の声の大きさも指示されていました。

言葉だけの説明で具体的なイメージをつくるのは大人でも難しい作業ですが、目からの情報も付け加えて説明することで具体的な理解が進みますし、作業中に黒板を見れば、次に何をするかもわかります。

これらの説明の後に、子ども達はそれぞれのグループで活動を始めましたが、最初の指示と説明がしっかりとなされていますから、生き生きと活動をすることができました。



子ども達の発表を聞いていますと、実際に券売機や改札口の機械を作って説明をしていました。

そして、説明をする中で、互いに「その説明は、こう言った方がわかるよ」「〇〇君、こう変えた方がいいよ」「この発表の時は、私が表を持ってあげる」などと、新たな工夫を発見していました。

その様子を見ておられた、世話係のＹ校長先生が、「子ども達がとっても育っているなあ」と言っておられました。

授業は、「教師の的確な指示 ⇒ 子どもの集中した活動 ⇒ 教師の褒め言葉」のサイクルが順調に展開すれば、教育効果が益々上がるものです。